

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の特徴	自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供します。 通所・宿泊・訪問この3つを自由にその方にとって必要な支援を組み合わせ、そのときの体調や状況によって柔軟なサービスを提供しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護アネックス関原	管理者	清水直樹		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	3人	1人	3人	人	人	1人	人	3人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	地域関連情報を月に1回のミーティング等で報告・連絡する。	ミーティング等を通して報告・連絡は実施できたが、参加出来ない職員への周知が弱かった。	達成できる具体的な内容でない と一年後に評価できない。 誰が見てもわかるように記載。 職員みんなで集まって、ある程度問題の提供、目標を立てた方がよいのでは？ 連絡ノートと併用でホワイトボードも使用するとなると記載の手間が増えないか？	職員全員への周知が必要な内容や変更が多い情報は事務室のホワイトボードに提示して共有する。
B. 事業所のしつらえ・環境	広報誌を月に一回発行し、まずは地域の方へ小規模アネックス関原は何をしている事業所か知っていただく。	毎月1回の広報紙発行は実施できた。 紙面の工夫を行い継続する	広報紙が出回っているかわからない。 広報紙の字が小さい。難しい字は少なく、日付など重要なことは大きく記載するとよい。 明るくて入りやすい開放的職員だけのアイデアのみでなく得意分野の方のアイデアを取り入れたい。 Cの項目と合わせて考えていければよいのではないか？	広報紙作成に際して近隣住民の方にはモニターを依頼、造形大のボランティア等の外部の方にも紙面作りに加わってもらう。
C. 事業所と地域のかかわり	職員から地域に出向いて行事やイベントに参加する。	町内会の行事や老人会の学習会企画等、出向いていく機会は徐々に増加した。 今後も継続し、頻度を増やす	事業所が地域に知られているかわからない。 広報で相談できる場としてアピールしてみたらどうか。 相談があった場合の対応方法を検討してみてもどうか。地域包括ケアなども、今後できるとよい。 もっと知ってもらうような方法	職員一人一人が小規模のことをよく理解して説明できるようにする研修を行う。 実習生や見学者等の対応の際、小規模の説明を職員が実施する。

			は？ 事業所に相談が来た時の対応が不安。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	事業所と地域のかかわりができてから出向いてく。	地域とのかかわりを進めていく中で検討する為、具体的な動きはなかった。 地域資源の把握や連携を模索したい	地域での暮らしを支えるための情報が少ない。 本人の取り巻く環境の詳細がわからない。 エコマップを作成し、わかるところから埋めていってはどうか。 個人情報なので取り扱いには十分注意してほしい。 イベントに参加したことの報告がほしい。	一人ひとりの利用者の情報を1冊に記入し共有できるノートを作成する。 1人の利用者から開始し、3か月後に評価してその後3人に増やす。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の開催時に職員が1人ずつ出席する。	毎回、職員が1名以上参加できた。 年6回しか開催されないため、今年度も継続する	会議で事業所の取組みが説明されていない。 地域の心配な方まで会議に出して検討する必要があるのか？ 夏のテラス開放は会議で出た意見として取組み継続している。 イベントがあった時を中心に、ご家族向けに広報紙を作成してはどうか。	運営推進会議で広報紙を資料として配布する。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時のマニュアル作り 地域の方を交えた防災訓練の実施	災害時のマニュアルは出来上がり、消防等へも確認を終えた。また、地域の防災訓練に職員と共に利用者也参加できた。 参加職員数を増やす検討および事業所防災訓練に参加して頂く地域住民の人数増加を図りたい	できたマニュアルが会議には提示されていない。 外部から来た人からも見れるような計画があればいいと思う。 防災装置の位置が曖昧。 マニュアル通り動けるか心配。 地域の連絡網を活用し、実際に訓練したほうがよい。 災害マニュアルは2～3年おきに内容の見直しを行っているが、期間が長いのか？	災害時のマニュアルを1人ずつ配布し、月に一回2、3人のグループで動きと装置の確認を行う。